ませんでしたが、試験の対策やアドバイスを日体大関係者の方々が親身に教えてくださいました。教員としてのあるべき姿や学級経営の方法を丁寧に指導して頂き、自身の理想像となる方々に出会えたことが一番の経験だと思います。

今、こうして教諭としていられるのもすべて周囲の方々が支えてくれているお陰であり、多くの方々やさまざまな環境に出会わせてくれた縁があったと考え、心から感謝しています。

勤務先の日体高校は日本体育大学の姉妹校でもあり、夏の体育祭では男子生徒全員で日体大伝統の「エッサッサ」を演じます。本番で成功させたい、さらには日体大卒という誇りからか、練習から熱い思いが込み上げてきます。本番での生徒一人ひとりが口を大きく開け、全力で声を張り上げ、一糸乱れない集団の姿に興奮と感動が生まれました。

まもなく初任者としての一年が終わりますが、常に初心を忘れず生徒の将来のために自分は何ができるのか考え、日々努力をしていきたいと思います。

今が一番いい

元浜松市立与進小学校
鈴木昌子（昭43卒）

この４月から退職後11年目の年、私は70歳の年代になる。10年間があっという間に過ぎたように思える。

振り返ってみると、37.5年間の教員生活もそうであった。川崎市で小学校へ勤務しながら小学校の免許を取り、その後夫の実家のある浜松市で小学校へ勤務した。体育教師を目指していたので中学校への異動を希望した。大学を卒業してから初めての中学校勤務、教育実習以来の中学校、念願の中学校であったが不安でいっぱいだった。

秋田県で生まれ、小中高と秋田県で育った私には同級生も恩師も友達もいない。そんな中、配属された湖東中学校で、日体大の後輩だという教師が同僚として力になってくれた。大学の同窓生ということで心強かったし、安心して仕事ができた。あのときの後輩には今でもありがたく、そして心から感謝している。その後も、学級・学年経営、部活動、研修、生徒指導、行政職、管理職等どこの場でも日体大の先輩・同年・後輩の方々に支えられ教えられ大きな力を頂いて、教員生活を最後まで終えることができた。

去る2015年11月12日㈭、横浜アリーナで開催された第53回体育研究発表実演会を見ることができた。感動と興奮でいっぱいになった。日体大の素晴らしさを体感でき卒業生であることを誇りに思い、私自身も大学の名に恥じない生き方をしたい。

さて、冒頭に今年から70歳の年代になることを書いたが、実は60歳のときから「マスターズ陸上競技大会」（５歳きざみの年代を競う大会）に出場している。種目はやり投と砲丸投である。60歳代の目標はそのときの日本新記録を出すことだった。学生時代にやっていても、そう簡単にはいかなかった。ようやく64歳（60～64歳区分の最後の年）の時日本新記録を出すことができた。翌年65～69歳区分での日本新記録も出した。

70歳代はやり投・80メートルハードル・混成７種競技に挑戦しようと思っている。トレーニングは苦しいけどやってみたい。苦しいけどやったあとは気持ちがいい。そんな時いつも思うのが「今が一番いい」若いときに戻りたいとも思わない今のこの歳でいいと。人は一人では生きていけないし何事も達成できないと思う。家族や職場の仲間、友人、そして日体大の同窓生の方々、いつでもどこでも誰かに助けられて今の自分があることに感謝したい。

企業人（銀行員）となって

体育学部社会体育学科卒
堀池建太（平25卒）

平成二十五年三月に日体大を卒業し、現在はスルガ銀行株式会社に勤務しております。学生時代はサッカー部に所属し、グランドでボールを追いかける日々を過ごしておりました。スポーツとは全く畑違いの環境で働くということに関して、入社当初は期待よりも不安の方が大きかったです。同期は経済学部や商学部出身が多く、数字や経済事情に関しての知識量は明らかに劣っていました。こんな状態で大丈夫なのかと自信を失いそうになることも多々ありました。しかし、少し時間が経ってみると、日体大で良かったと感じる機会が物凄く増えました。体力や精神的面の強さはもちろん、コミュニケーション能力や行動力など、日体大で過ごした四年間で知らず知らずのうちに身に付いた力は大きな武器となっております。「お客様第一」の仕事ですので、やはり商談の時や訪問営業の際にはこのような能力が必要不可欠です。上手くいかず壁に